

新規機能のご説明

～データパレット/加工機能の 大幅アップデート～

- データパレット/加工機能をご利用頂く中で発生していた課題を解消するため、新規機能をリリースします
- 新規機能を適切にご利用頂くため、利用方法をご説明させていただきます



これまでの課題

これまで、データパレットにおいて、**2つの課題**がありました

課題①

加工データの
元データの確認に
工数がかかる

課題②

データ修正時、
後続データの再構築に
工数がかかる

課題① 加工データの元データの確認に工数がかかる

課題の概要

加工データに利用されている元データを確認するには、**ワークフローアプリを使う必要があります、確認するまでに工数がかかる**

作業の流れ

データパレットでデータファイルを確認

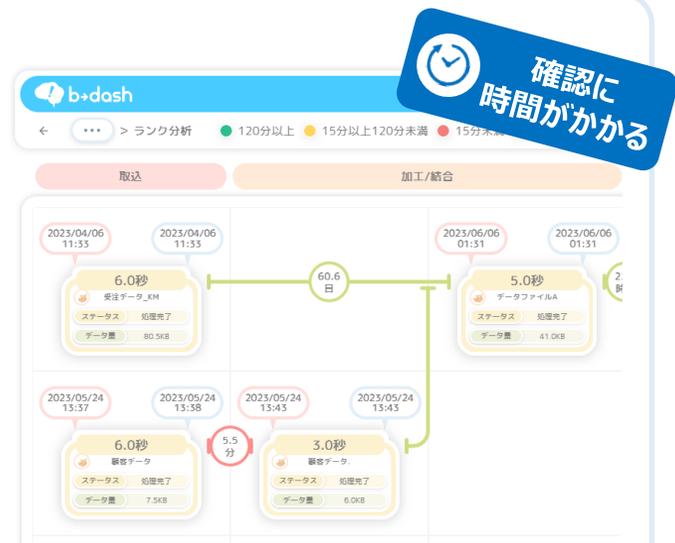
このデータの元データを
確認したいな…！



A	B	C
※ 受注ID	※ 受注日	※ 顧客ID
212	2018/04/16	26
213	2018/04/16	5311
214	2018/04/17	20855
215	2018/04/18	24539
216	2018/04/18	7646
217	2018/04/19	18667
218	2018/04/19	13334
219	2018/04/20	177
220	2018/04/20	10005
221	2018/04/20	3978
222	2018/04/21	1352
223	2018/04/21	10115

ワークフローで元データを確認

時間がかかるな…





課題② データ修正時、後続データの再構築に工数がかかる

課題の概要

加工データを差し替えることができないため、加工データを修正した際、**後続のデータを再構築する必要があり、工数がかかる**

作業の流れ

加工データを修正

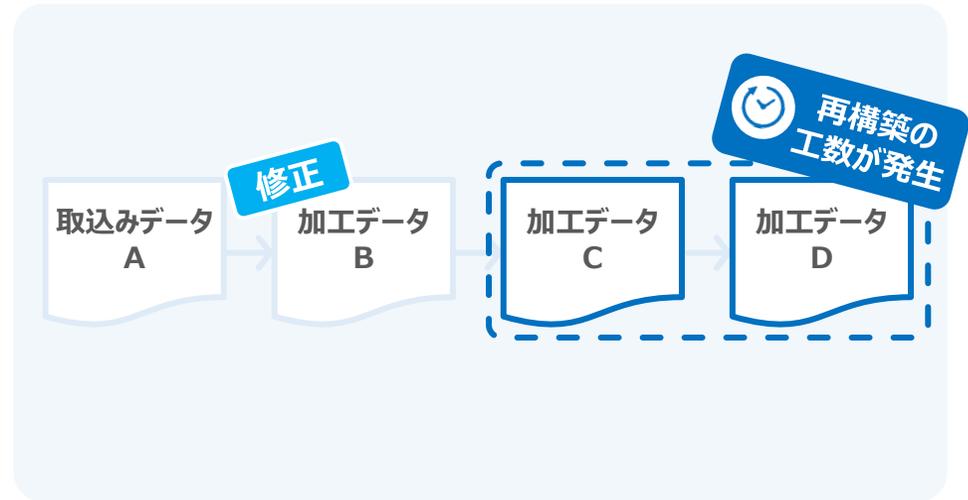
加工データB (修正前)

顧客ID	姓	名
001	田中	太郎
002	佐藤	次郎
003	高橋	三郎

加工データB (修正後)

顧客ID	名前
001	田中 太郎
002	佐藤 次郎
003	高橋 三郎

後続データを作り直し





課題を解消するための機能

これらの課題を解消するため、**データパレットをアップデート**します

課題①

加工データの
元データの確認に
工数がかかる

アップデート内容

データパレット画面で
元データを確認できる

課題②

データ修正時、
後続データの再構築に
工数がかかる

アップデート内容

データ修正時、加工データの
差し替えができる



課題を解消するための機能

まず、「データパレット画面で元データを確認できる」機能について説明します

課題①

加工データの
元データの確認に
工数がかかる



アップデート内容

データパレット画面で
元データを確認できる

課題②

データ修正時、
後続データの再構築に
工数がかかる



アップデート内容

データ修正時、加工データの
差し替えができる

データパレット画面で元データを確認できる

機能の概要

データパレットの画面上で、加工データに利用しているデータを確認できる機能

画面のイメージ





データパレット画面で元データを確認できる 操作方法

操作の
流れ

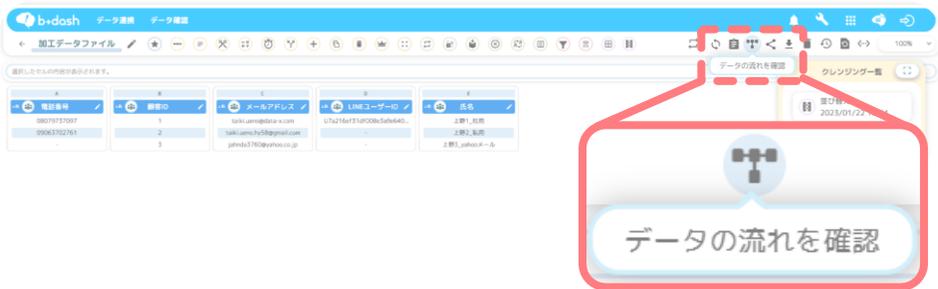
データファイル一覧画面
または、データファイル詳細画面から
「データファイルの流れを確認」ボタンをクリック

「詳しく見る」ボタンをクリックすると、
元データが表示される

画面



or



元データを表示



課題を解消するための機能

続いて、「データ修正時、加工データの差し替えができる」機能について説明します

課題①

加工データの
元データの確認に
工数がかかる

アップデート内容

データパレット画面で
元データを確認できる

課題②

データ修正時、
後続データの再構築に
工数がかかる

アップデート内容

データ修正時、加工データの
差し替えができる

データ修正時、加工データの差し替えができる

以下の2段階で、機能のアップデートを行います

段階1

加工データを元に
新規データを作成できる
(6月中旬リリース予定)

段階2

加工データの
差し替えができる
(7月リリース予定)

データ修正時、加工データの差し替えができる

まず、段階1について説明します

段階1

加工データを元に
新規データを作成できる
(6月中旬リリース予定)

段階2

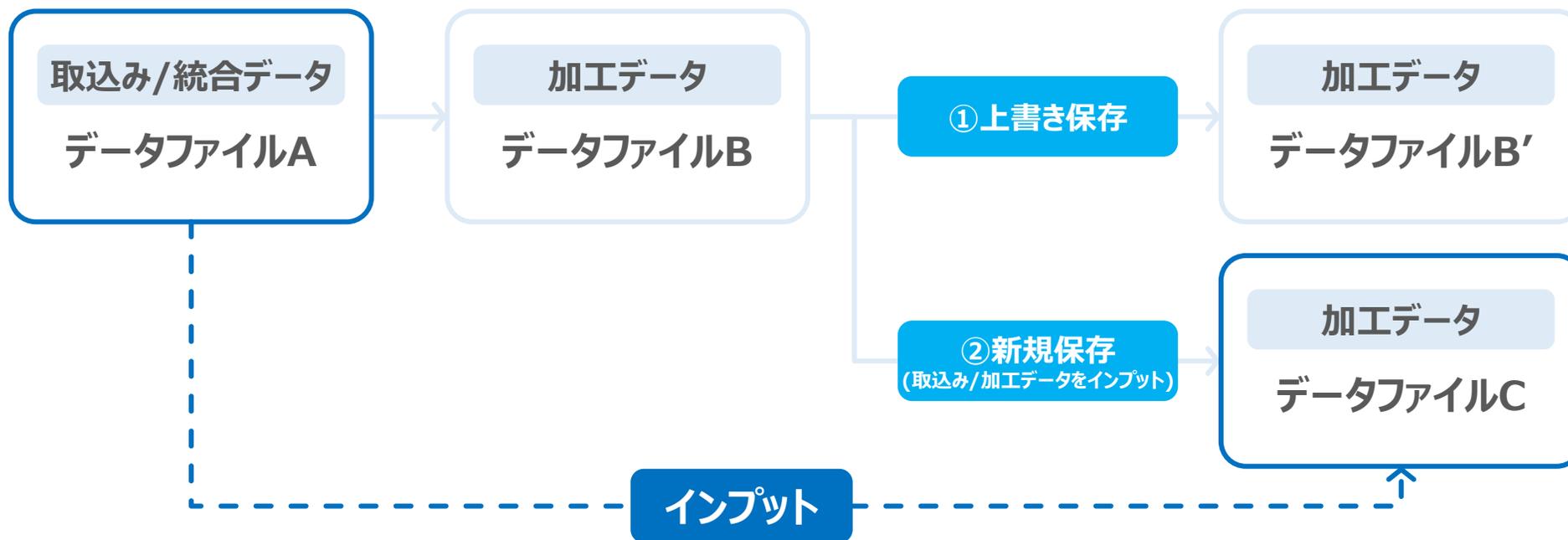
加工データの
差し替えができる
(7月リリース予定)



段階1 加工データを元に新規データを作成できる

これまで

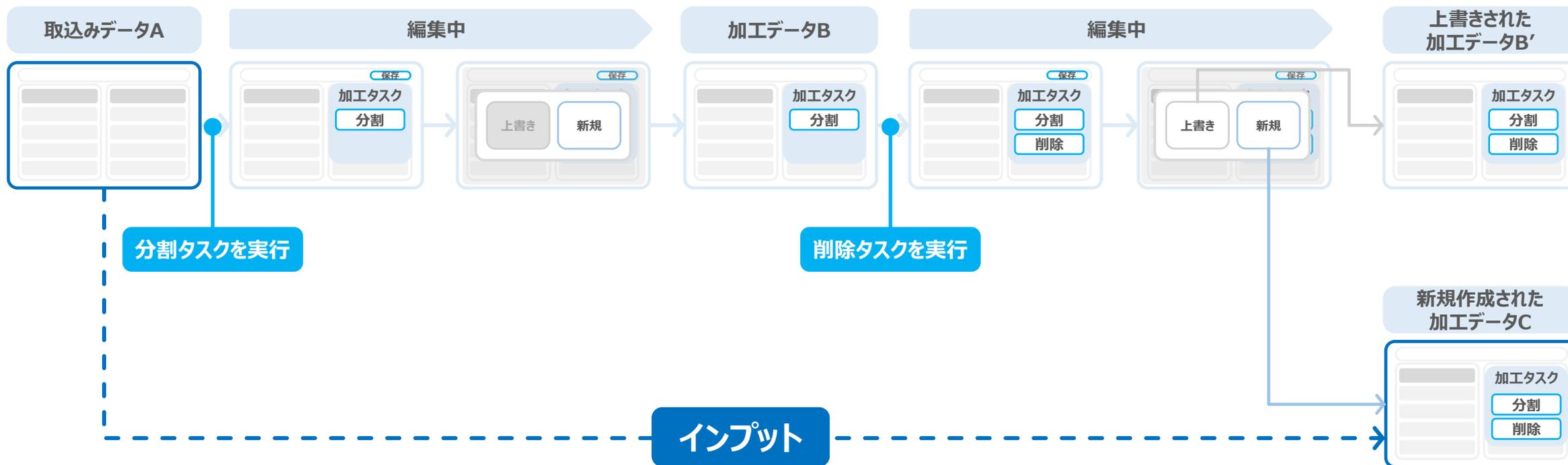
- データファイルを加工した場合、保存方法は「①上書き保存」か「②新規保存」の2パターンから選択できる
- 「新規保存」した場合、加工データではなく、**取込み/統合データをインプットデータとしている**



段階1 加工データを元に新規データを作成できる

「新規保存」した場合の具体例

取込みデータAを加工してデータBを作成し、データBを加工してデータCを新規保存した場合、データCのインプットデータは取込みデータAになる

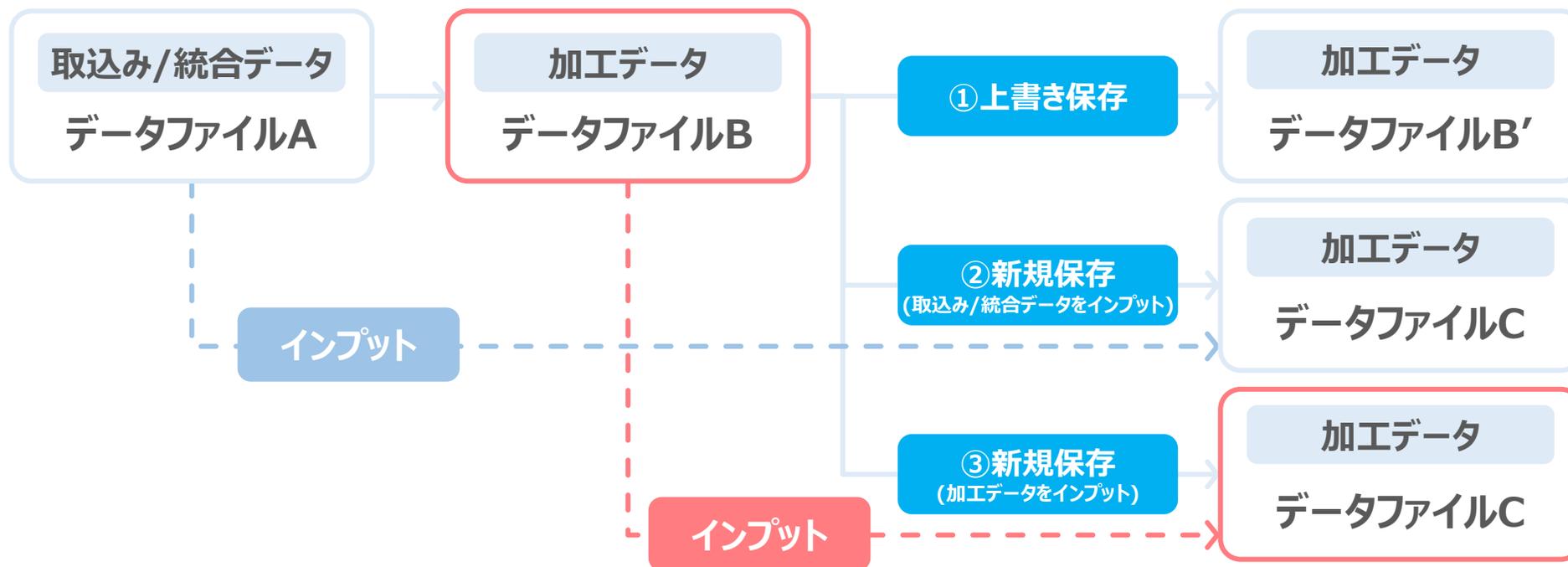




段階1 加工データを元に新規データを作成できる

これから

- これまでと同様の「上書き保存」と「取込み/統合データをインプットデータとした新規保存」に加え、「**加工データをインプットデータとした新規保存**」が可能になる
- 「加工データをインプットデータとした新規保存」をすると、**加工データを元に新しいデータを作成できる**





これからの画面導線

これからは、保存方法を選択してから加工タスクを実行する導線になります

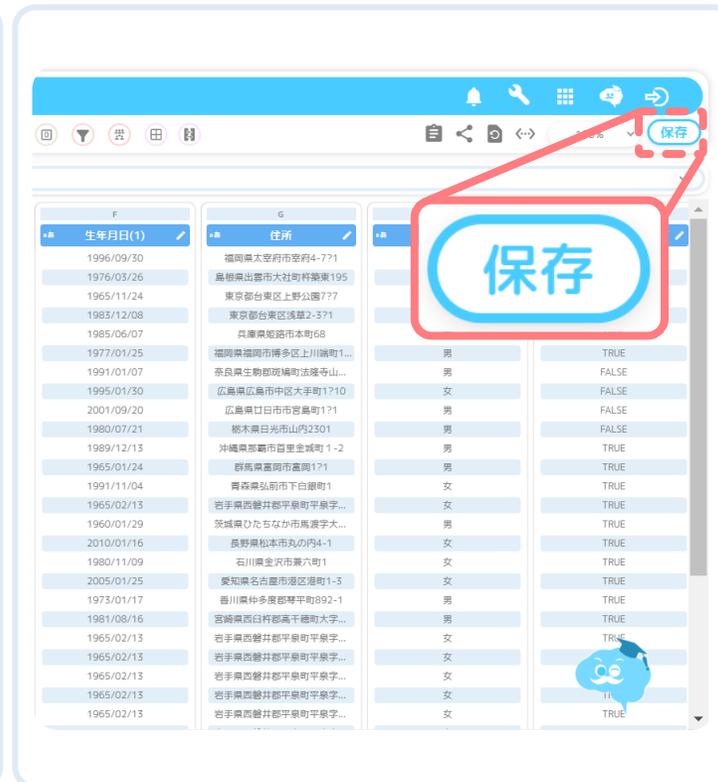
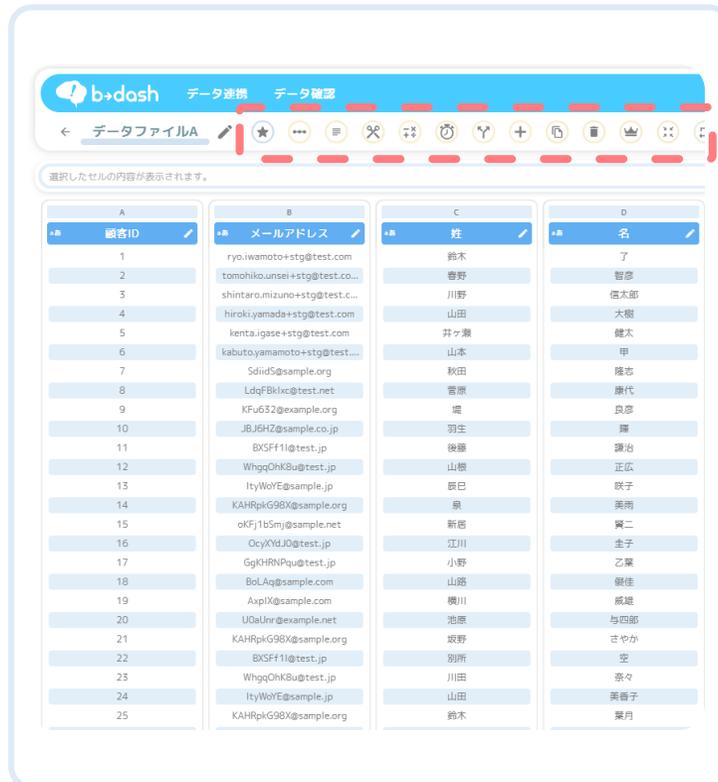
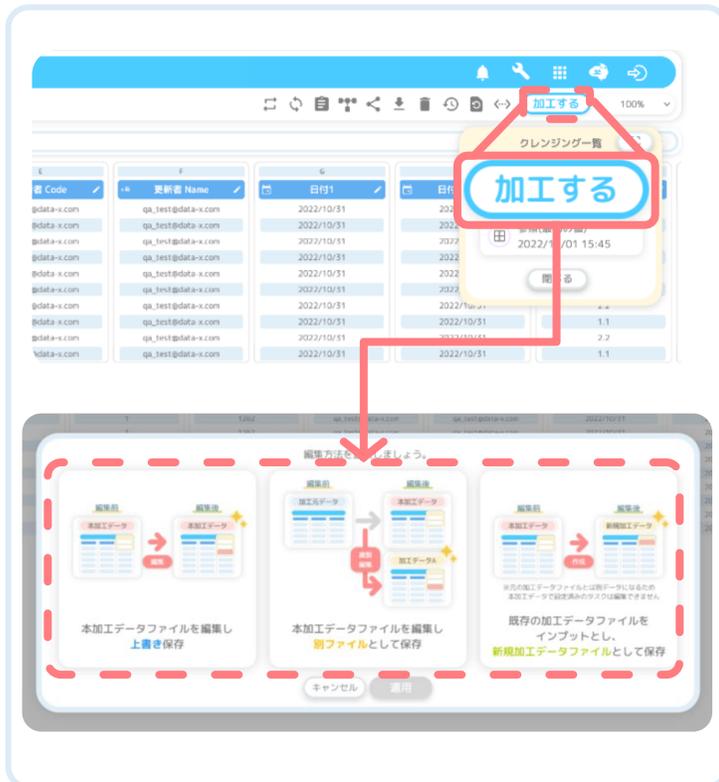
設定の
流れ

「加工する」ボタンをクリックし
保存方法を選択

加工タスクを実行

「保存ボタン」をクリック

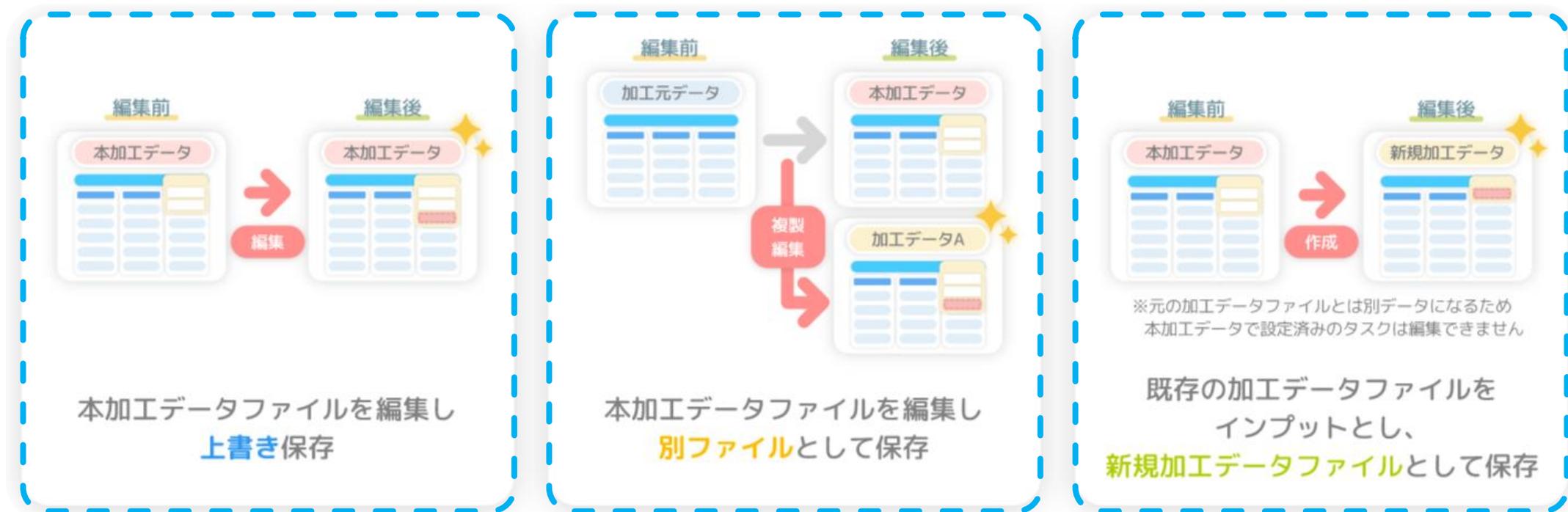
画面





保存方法

保存方法は、先ほど説明した3つのパターンに該当します



※元の加工データファイルとは別データになるため
本加工データで設定済みのタスクは編集できません

既存の加工データファイルを
インポートとし、
新規加工データファイルとして保存

① 上書き保存

② 新規保存
(取込み/統合データをインポート)

③ 新規保存
(加工データをインポート)

データ修正時、加工データの差し替えができる

続いて、段階2について説明します

段階1

加工データを元に
新規データを作成できる
(6月中旬リリース予定)

段階2

加工データの
差し替えができる
(7月リリース予定)

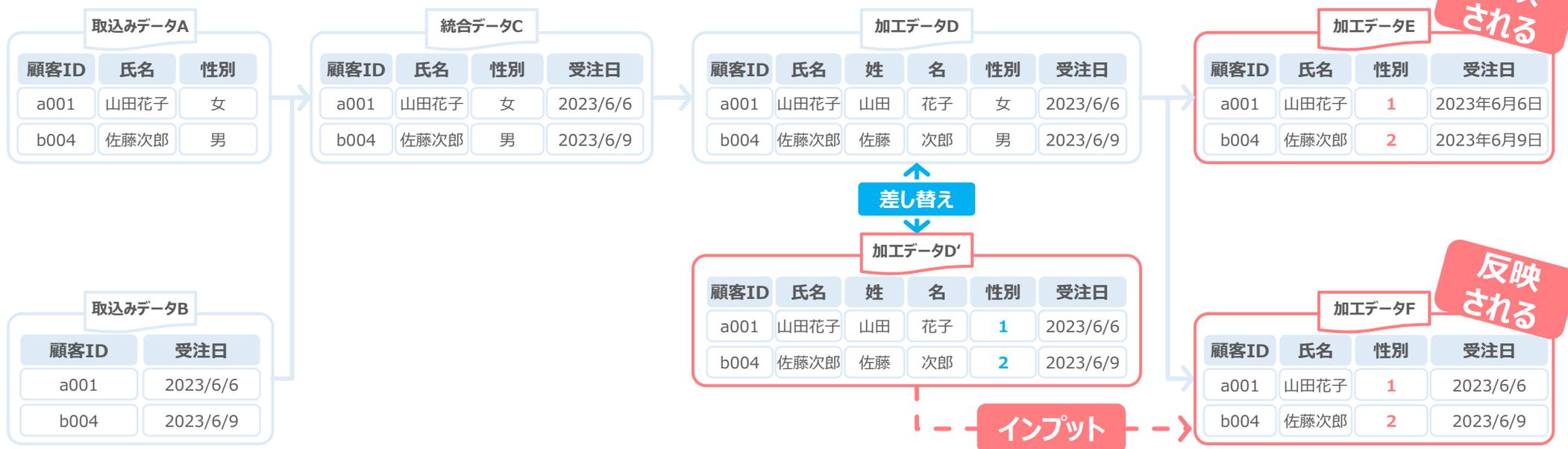
段階2 加工データの差し替えができる

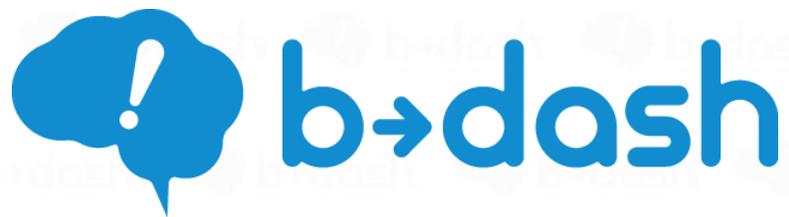
ケース

取込みデータAとBを統合したデータCを加工して、データDを作成し、さらに、データE/Fと後続につながっているフローにおいて、**データDをデータD'に差し替える**

データの構造

データDをインプットとすることができるため、データDを差し替えるとデータE/Fにも**反映される**
※ただし、加工データをインプットデータとしている場合、後続でそのデータを使用していると、不要になった場合でも削除できないため、ご注意ください





～ 免責事項 ～

第三者による、文書の無断転用、引用を禁止いたします。
本資料に記載している情報は、信頼できる情報ソースから取得しておりますが、その内容の正確性、信頼性、完全性、網羅性を保証するものではありません。
本資料に記載している情報による意思決定は、貴社の判断及び責任において行うようお願い申し上げます。